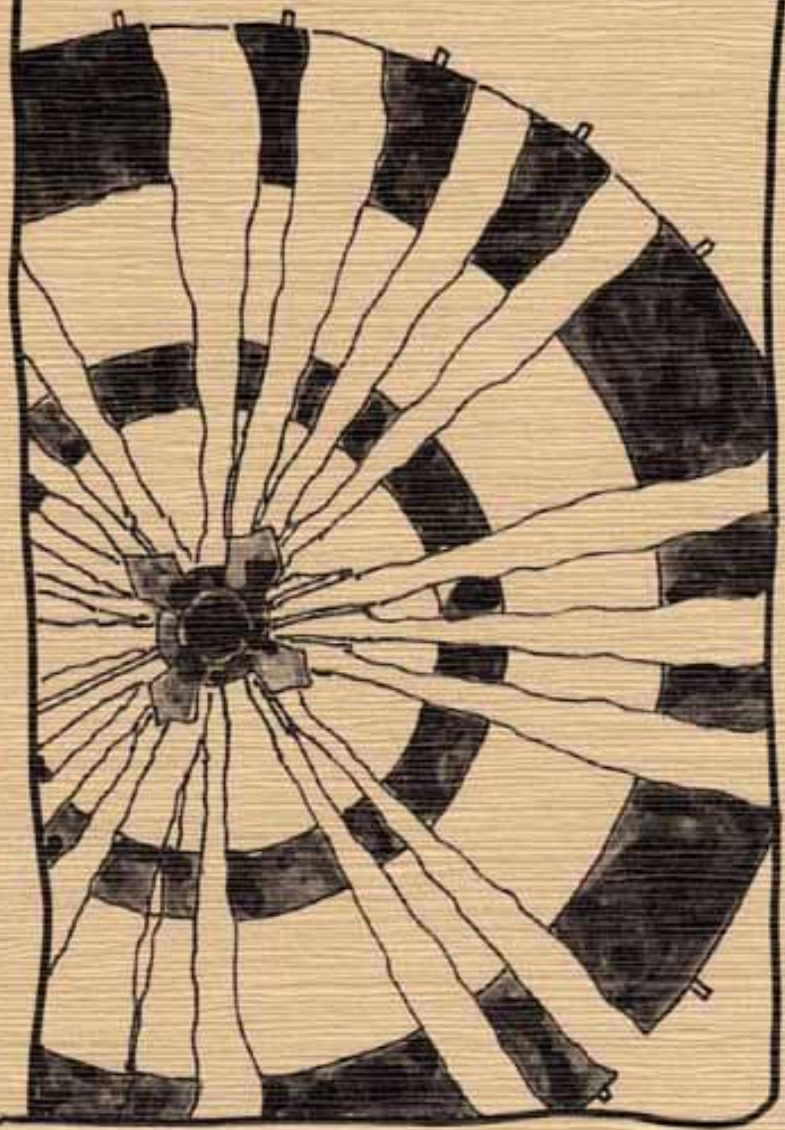


# やぶれ傘



一三五号

二〇二三年十二月

川涸れてめんこのやうな石拾ふ 根橋宏次  
 暖かなベンチ十一月の昼 きくちきみえ  
 菊芋のしまひの花がまだすこし 大島英昭  
 停車するダンブの匂ひ猫じやらし 丑久保 勲  
 こんにやくを買うて紅葉を見て帰る 青谷小枝  
 ひとり飲む酒にも慣れて菊脛 廣瀬雅男  
 いつまでもドトールに居る冬の夜 小山よる  
 草野球ネットの裏の泡立草 天野美登里  
 朝冷えの鉄の手摺に触れてゆく 藤井美晴  
 銀杏の実父のミットへストライク 渡邊孝彦  
 ゆりかもめ橋の向かうに橋がまた 安藤久美子  
 初もみち寄進の瓦組まれゆく 有賀昌子  
 小春日の利根川へ石投げてみる 白石正躬  
 雨やんで陽の差しきたる秋茄子 秋山信行  
 白桃のつるりと皮のむけて晴 貫井照子

## 抄 集 句 傘 紀 大 崎 ぶ れ や

うろこ雲ふわりふわりとグライダー 野口希代志  
 みちのくの旅のお伴はうろこ雲 萩原久代  
 花木権にわか雨降る中山道 村田 武  
 立てかけし杖に冬日のありつたけ 山本久枝  
 九月尽足の三里に灸を据ゑ 吉田幸恵  
 イヤホンを付けて眠つてゐる小春 脇村 碧  
 一階と二階で仰ぐ後の月 浅嶋 肇  
 遠くにボン近くにパンと威銃 泉 一九  
 もの映るまで薬缶を磨き上げて秋 岩藤礼子  
 どれどれと満月を見に通りまで 奥田温子  
 ひややかな上がり框に腰かけて 木村瑞枝  
 教師には向いていたかも日向ほこ 倉澤節子  
 雑巾をバツテンに縫ふ冬支度 小泉里香  
 涼新た書棚の端に「ギヤツツビー」 竹内文夫  
 杉丸太野積みのままに冬に入る 中島和子



冬田

大崎紀夫

自動車がとまればとまる赤とんぼ  
秋落葉かさりと猫が踏んでくる  
ひめむかしよもぎがほほけきつてゐる  
校庭を鳩がうろつく秋旱  
水切りを終へて子らくる芋煮会

海風はあかるく柚子は色づいて  
稲架解かれあたりなんだか空つぽに  
初冬の線路向うに山羊がゐる  
冬の日のあかるい土手にのぼりゆく  
からからの冬田に立ってゐるからす  
日は斜めこんにやく玉の土乾き  
大根引く人が近くにふたりゐる

## 川涸れて

すぐそばに猫ゐてふかし諸うまし  
 水引いてうきくさ紅葉のこる杭  
 石段のほどよき蹴上げ櫛紅葉  
 畑仕舞ふけむり背高泡立草  
 貨車の戸を歩いて開けるいわし雲  
 ひやひやと砥石の上のうすき水  
 朝市の出口で売られ凍み豆腐  
 菊脛山の容がまだ見えて  
 舫はれてタイヤ打ち合ふ舟冬へ  
 川涸れてめんこのやうな石拾ふ

きくち きみえ

## 十一月

曼珠沙華花を枯らしてゐて真直ぐ  
 紅玉の影の膨らむ午前二時  
 新酒酌むみんなひとこと言つてゐる  
 手の届くあたりに余所の家の柿  
 柿を干す紐の長さはいい加減  
 ひさびさにしてストーブの着火音  
 木枯し一号玄関の明り点く  
 冬蝶の角を曲つてそれつきり  
 暖房の車輛に事故のアナウンス  
 暖かなベンチ十一月の昼

菊芋

たちまちには雲を出て曼珠沙華  
庭中がコスモスだらけにて空き家  
近づけば近づくほどに破れ芭蕉  
畳屋が見えたら右へ草もみぢ  
何もなき畑となつてきりぎりす  
秋あかね如雨露のノズル取れたまま  
また秋の黄蝶が跳ねるやうにくる  
遮断機が降りる向かうの秋ざくら  
菊芋のしまひの花がまだすこし  
雲なしと確かめてゐる小六月

大島英昭

茶の花

コスモスのあたりへ飛んで三墨打  
停車するダンプの匂ひ猫じやらし  
「ブレンド」とひとことを言ふカフェの秋  
向うから会話近づく秋の夜  
青信号でさつと踏み出す暮の秋  
行く秋のイースト菌の匂ふ店  
茶の花が農家の門へ行く道に  
ドア開いて床屋より客小六月  
マッチ一本石油ストーブすぐに点き  
竹の定規の目盛くつきり鴨のこゑ

丑久保 勲

◇1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	9日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	9日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン1	大島英昭
	10日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン4	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	27日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
2月	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	5日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	18日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	森下文化センター	丑久保 勲
	24日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	24日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

2月18日(日)の吟行。

集合 10時、JR山手線・上野駅・公園口。

公園口は駅の北に移動。上野動物園が正面に見える。

吟行地 弁天堂から不忍池を突っ切って湯島天神へ。

句会場 森下文化センター第1会議室。都営大江戸線で移動。

◎連絡先 秋山信行 ☎048-874-0555 藤井美晴 ☎0422-55-2733  
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 丑久保 勲 ☎048-853-3856

室の花  
 こんにやくを買って紅葉を見て帰る  
 夜長し猫をかまっつてから寝付く  
 紅ひいてもらふちび魔女渋谷秋  
 卓上のりんごのかをる夜なりけり  
 ここよりは参道どんぐりざくと踏み  
 瓶底のジャムが取れない冬の朝  
 こぼれ塩いくらか溶けて冬あたたか  
 ゆつくり行く木の葉がとて降るからに  
 霜の朝落として湯呑真二つ  
 熱湯にレモンはちみつ室の花

青谷小枝